

令和元年6月26日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02467

研究課題名(和文) Lucy M. Boston 研究：聴覚的感性と自然環境保護意識

研究課題名(英文) A Study of Lucy M. Boston: from soundscape perspectives

研究代表者

田中 美保子 (TANAKA, MIHOKO)

東京女子大学・現代教養学部・准教授

研究者番号：30385380

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：英国の女性作家L・M・ボストン(1892-1990)の全体像を「総合芸術家」として多角的に浮き彫りにすることを目的として、日本と英国の研究者9名による共同研究を行った。多様な芸術活動と音響感覚と自然環境保護意識との関係に着目し、ボストンの音楽的嗜好やマナ・ハウスの音環境、文学作品や手仕事(パッチワークや植栽)を、サウンドスケープと環境文学(エコクリティシズム)の研究法を併用することにより分析した。その結果、ボストンの創作活動は他の諸芸術活動と関係し影響し合っていたこと、また、社会情勢も敏感に取り入れていることなどが明らかになった。これらは、従来のボストンの作家像を塗りかえる新たな発見となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、文学とサウンドスケープという専門領域の異なる研究者の協同や、コーパス言語学、音響環境学、ジェンダー表象(手仕事論)などの研究者の協力による多角的な視座からの分析により、その多彩さゆえにこれまで研究対象として敬遠されてきたL.Bostonの総合芸術家としての側面と、聴覚的特性および環境意識との密接なつながりを明らかにした。この研究を通して、これまで児童文学の作家としての側面ばかり注目されてきたボストン研究の広がりにも寄与するとともに、日英の多様な研究者が協力による学際性豊かな研究をなし得た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to seek and define the artistry of Lucy M. Boston (1892-1990). L.Boston is known mainly as a writer, but her artistic activities are varied in many different fields, which requires us to call her 'artist in general' rather than a mere writer. Her activities are found in painting, gardening, music, needlework (especially patchworks) as well as writing, and in order to pursue our project, I have asked nine researchers in England and Japan to join our project.

Our major discipline is literary criticism, but we also use that of soundscape theory and eco-criticism to analyse her activities and what she had produced.

As a result, we have made it clear that the fact that all her artistic activities are mutually connected, and that her activities are not detached from social situation of respective period of her writing. This is a new discovery which changes the image of Lucy M. Boston as a writer.

研究分野：現代英国児童文学研究および翻訳研究

キーワード：ルーシー・M・ボストン グリーン・ノウ・シリーズ マナ・ハウス 音楽と音環境 手仕事 言語と文体 イラストレーション ダイアナ・ボストン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

Lucy M. Boston は、62 歳で作家デビューし、14 冊の児童書(内 6 冊がシリーズ)と 6 冊の一般書(自伝、小説、戯曲、詩集)を著した。油彩画家、音楽愛好家、育苗家・ガーデナーでもあった彼女の芸術性が豊かに開花したのは 40 代半ばの マナ・ハウス (900年前にノルマン人貴族が建築)との出会いによる。L.Boston の文学作品はほぼ全てこの館を舞台にしたもので、五感(特に聴覚と視覚)に訴える独特の感覚溢れる世界、“a novel of sounds; things seen are also heard, and [...] an orchestration of awakening sounds as well as a picture of stirring imagery” (V.Watson, *Reading Series Fiction* (2000) 141) を生んだ。

本研究では、特に以下の2つの点に着目して、2015 年度までの科研費研究成果を活用発展させた。第一の着眼点は、第二次大戦中にボストンの開催した空軍兵士達のためのレコードコンサートの他、文学作品中の「音」や「響き」への言及、詩ばかりでなく散文におけるリズムや韻律の美しさ等にみられる彼女の鋭い音響感覚や音や響きへのこだわりである。第二の着眼点は、多様な芸術活動が相互に密接に関連し影響し合っているL.Bostonの諸活動には自然を愛する環境保護意識が通底していることである(D・ボストン著、林望訳『ボストン夫人のパッチワーク』(2000)18-23, 120-124/J. P. Walsh, “Introduction” in Lucy M. Boston, *Memories* (1992) 5-9 他)。ボストンは講演などでも自然環境保全を訴えており、文学作品創作やオペラ作詞なども一種の環境保護活動であったと考えられる。

L.Boston は、いずれの芸術活動においても秀でた作品を残しているが、多彩さゆえこれまで研究対象として敬遠されてきた。Lucy M. Boston の各種芸術活動は相互に密接に関係し影響し合っており、多角的に捉えなにかぎり真の L.Boston 像を浮き彫りにできない。これまで、カーネギー賞という児童文学作家としての最高の栄誉を受け、英国内でも日本でも高く評価されながらも、まとまった評伝が英国でも日本でも出されていないのは、そうした多角的検討の必要性からくる L.Boston 研究の困難さにあると思われる。本研究では、サウンドスケープ、環境文学(エコクリティシズム)の研究法を併用して、L.Boston の文学を新たな視点から考察し、研究者の協力による多様なアプローチを擁した多角的共同研究を行うことで、総合芸術家としてのボストン像を探った。

2. 研究の目的

英国の女性作家 Lucy M. Boston (1892-1990) の全体像を「総合芸術家」として多角的に浮き彫りにすることが目的である。L.Boston は、日本では「児童文学作家」としてのみ定着しているが、文学を含めたその多才で多様な芸術活動は、実は地球規模で自然環境を捉える感性に基づく広義の環境保護活動であったのではないだろうか。

そこで本研究では、L.Boston のさまざまな芸術性の中でも、とりわけ研究の光が当てられることのなかった側面である音響感覚と自然環境保護意識に焦点をあてる。そのために、サウンドスケープ研究者の協力も得て、L.Boston 作品の基盤である「館」(マナ・ハウス)のサウンドスケープ、作品に現れた聴覚的特性および環境意識を考察し、それが彼女の文学において有する意義を考究した。

3. 研究の方法

2015 年度までに L.Boston の活動の中でもっとも顧みられることのなかった音楽愛好家としての側面を調査し、データや資料を得てきた。本研究では、それらを、音環境から環

境全般に拡げて考察する。L. Boston の音楽的嗜好がその文学に及ぼした影響と、文学作品や手仕事(パッチワークや植栽)の特徴を、豊かな地球環境をできるだけ自然のまま保全し次世代に継承しようとする Boston の環境保護意識の現れとして分析した。これは、日英いずれの文学研究界においても比類なき独創的な視点とアプローチである。本研究の後にまとめ、世に問う予定の研究書やデータベースにおいても、不可欠かつ斬新な要素となる。

本研究費制度の長所を最大に活かして、文学とサウンドスケープという専門領域の異なる研究者の協同や、コーパス言語学、音響環境学、ジェンダー表象(手仕事論)などの研究者の協力による多様なアプローチを擁した多角的共同研究を行なった。

2015 年度までに、Lucy M. Boston の文学を支える外的要素(生活・芸術活動など)および文学作品における音あるいは聴覚経験に関する記述の抽出、コーパスによる単語間距離の分析、所有レコードや実施された各種コンサート演奏楽曲リストなどの資料から音楽的嗜好の抽出、館(マナ・ハウス)のサウンドスケープ(音環境)調査などを実施し、相当のデータと資料を得ている。本研究ではそれらのデータや資料を整理・分析し、それぞれの結果を、言語・文体やテーマなど文学的解釈と擦り合わせ、また、手仕事・造園・挿画から Boston の環境意識を抽出し、それらと文学作品における表象とを摺り合わせた。より精緻な分析のため、毎夏研究代表者が同邸を訪れ、現住の義娘 Diana Boston への聞き取りや、書簡などの一次資料の調査・収集、研究内容の確認などを行なった。以上全体から、Boston の音響感覚と環境意識を考察し、それらが彼女の文学において有する意義を考究した。

4. 研究成果

国内外の研究協力者も増えて研究は大きく発展した。以下の3つの観点から個々に研究を進めるとともに、随時、研究代表者と在英の研究協力者たち、および、研究代表者と日本国内の研究協力者たちが一堂に介し、研究遂行のための議論や意見交換・研究会を活発に重ねた。全体研究会を7度、また2018年6月2日には在英の研究協力者である Catherine Butler 氏を招いての公開講演会(イギリス児童文学の伝統と「グリーン・ノウ・シリーズ」)を開催した。その結果、代表者はじめ研究協力者数名が論考をまとめ、それぞれを成果論文に仕上げた。今後は、さらに多くの人の研究資料として活用できるよう、これらを日英で公表したい。

(1)音楽・音環境に関して

研究代表者が現地へ赴き、館の管理人である Lucy Boston の義娘 Diana Boston へのインタビュー取材をした。とくに、レコードコンサートやレコード収集に関する記録の手がかりとなる館内外の資料の発掘・収集を行なった。さらに、得られた資料を持ち帰って、連携協力者や研究協力者と共有、それらの分析を行なった。

(2)言語・文体に関して

在英の研究協力者4名および、在英ながら日本訪問中の研究協力者へのインタビューを行なった。また Boston 邸に保管されていた書簡を閲覧し、その一部を複写して持ち帰った。それらの結果を日本の研究協力者3名と共有し、各自の研究に生かすための意見交換を行なった。

(3)手仕事・イラストレーションに関して

手仕事の代表であるパッチワークの実物や実際の庭園の画像資料を代表者が持ち帰り、それを日本の研究協力者たちと共有した。合わせて、L. Boston の文学作品においてイラストレーションの果たす役割についても複数の研究協力者で分析・考察を行なった。

上記の結果、ボストンの創作活動は他の諸芸術活動と関係し影響し合っていたこと、また、社会情勢も敏感に取り入れていることなどが明らかになった。これらは、従来のボストンの作家像を塗りかえる新たな発見となった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

磯部理美、目に見えないもの の語り—Lucy M. Bostonの環世界を読む—、

Tinker Bell 英語圏児童文学研究、査読有、64、2019年、pp. 17-33。

菱田信彦、ダンブルドアはゲイだった? : 「ハリー・ポッター」シリーズにおける男たちの系譜、

川村学園女子大学研究紀要、査読無、30(1)、2019年、pp. 1-12。

田中美保子、宮崎駿『千と千尋の神隠し』のアメリカにおける受容 日本の神々・妖怪たち、

東京女子大学比較文化研究所紀要、査読無、79、2018年、pp. 49-64。

ヴィクター・ワトソン(田中美保子訳) とびきり幸せなパートナー: ルーシー・ボストンとピーター・ボストン、

東京女子大学紀要「論集」、査読無、69/1、2018年、pp. 65-95。

菱田信彦、協同学習をとり入れた英語教育における異文化理解への取り組み: イギリス史に関する文献を題材として、

川村学園女子大学研究紀要、査読無、29/1、2018年、pp. 23-47。

ヴィクター・ワトソン(田中美保子・香川由紀子共訳) 生の息吹、悲喜こもごもに: Green Knowe 以外の Lucy M. Boston 作品(下)

東京女子大学紀要「論集」、査読無、68/1、2017年、pp. 201-217。

ヴィクター・ワトソン(田中美保子・香川由紀子共訳) 生の息吹、悲喜こもごもに: Green Knowe 以外の Lucy M. Boston 作品(上)

東京女子大学紀要「論集」、査読無、68/1、2017年、pp. 201-217。

菅谷美佳子、1990年代におけるタイム・ファンタジーの展開に関する一考察 —Hexwood (1993)を例として—、

Tinker Bell 英語圏児童文学研究、査読有、63、2017年、pp. 65-80。

ヴィクター・ワトソン(田中美保子訳) 古きよき静寂の音: Lucy. M BostonとGreen Knowe シリーズの世界(下)

東京女子大学紀要「論集」、査読無、67/2、2017年、pp. 65-81。

菅谷美佳子、L. M. Bostonの児童文学作品における環境意識の変化、

Tinker Bell 英語圏児童文学研究、査読有、62、2017年、pp. 65-80。

ヴィクター・ワトソン(田中美保子訳) 古きよき静寂の音: Lucy. M BostonとGreen Knowe シリーズの世界(上)

東京女子大学紀要「論集」、査読無、67/1、2016年、pp. 281-293。

[学会発表](計13件)

発表者名: 田中 美保子

学会名: 36th IBBY International Congress (国際学会)、

表題: The World of Green Knowe: where the West and the East meet、発表年: 2018年

発表者名: 菅谷 美佳子

学会名: 36th IBBY International Congress (国際学会)

表題: Diversity of the Children in L. M. Boston's *Green Knowe* Series、発表年: 2018年

発表者名: 磯部 理美

学会名: 36th IBBY International Congress (国際学会)

表題: How Nashiki Met the "West": Influence of British children's literature in Kaho Nashiki's works、発表年: 2018年

発表者名: 香川 由紀子

学会名：日本イギリス児童文学会第48回研究大会

表題：ルーシー・ボストンの手仕事と文学、発表年：2018年

発表者名：磯部 理美

学会名：日本イギリス児童文学会第48回研究大会

表題：梨木香歩の初期作品にみられるイギリス児童文学の影響、発表年：2018年

発表者名：キャサリン・パトラー

学会名：ボストン・プロジェクト（科学研究費）公開研究会

表題：Generic Environment of *Green Knowe* Books、発表年：2018年

発表者名：田中 美保子

学会名：八重洲ブックセンター（招待講演）

表題：リズ・ベリー作『月影の迷路』の背景世界を味わう ～イギリス式庭園、古い館、巨石群・古墳、聖井～、発表年：2017年

発表者名：田中 美保子

学会名：文学・環境学会

表題：Liz Berry, *The China Garden*: 次世代の地球の守護者へのメッセージ、発表年：2017年

発表者名：田中 美保子

学会名：The International Research Society for Children's Literature（国際学会）

表題：Lucy M. Boston's Soundscape Artistry in the *Green Knowe* series、発表年：2017年

発表者名：菅谷 美佳子

学会名：The International Research Society for Children's Literature（国際学会）

表題：The Boundary between Ghost Stories and TimeSlip Fantasy: The Case of the *Green Knowe* Series、発表年：2017年

発表者名：菅谷 美佳子

学会名：日本イギリス児童文学会

表題：*A Stitch in Time* (1976)における過去の意味、発表年：2017年

発表者名：菅谷 美佳子

学会名：日本イギリス児童文学会

表題：*Hexwood* (1993)における森の役割-タイム・ファンタジー定義の試論-、発表年：2016年

発表者名：マーティン・ウィリス

学会名：科研費 Boston プロジェクト2 公開研究会

表題：*Green Knowe*: a quantitative analysis 2、発表年：2016年

〔図書〕(計2件)

アン・スウェイト著(山内 玲子・田中 美保子共訳)

グッバイ・クリストファー・ロビン、国書刊行会、2018年、436。

リズ・ベリー(田中 美保子訳)

月影の迷路、国書刊行会、2017年、432。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：鳥越 けい子

ローマ字氏名：TORIGOE, Keiko

研究協力者氏名：菱田 信彦

ローマ字氏名：HISHIDA, Nobuhiko

研究協力者氏名：平松 幸三

ローマ字氏名：HIRAMATSU, Kozo

研究協力者氏名：林 望

ローマ字氏名：HAYASHI, Nozomu

研究協力者氏名：長沼 登代子

ローマ字氏名：NAGANUMA, Toyoko

研究協力者氏名：ワトソン ヴィクター

ローマ字氏名：WATSON, Victor

研究協力者氏名：ボストン ダイアナ

ローマ字氏名：BOSTON, Diana

研究協力者氏名：ウィリス マーティン

ローマ字氏名：WILLIS, Martin

研究協力者氏名：バトラー キャサリン

ローマ字氏名：BUTLER, Catherine

研究協力者氏名：菅谷 美佳子

ローマ字氏名：SUGAYA, Mikako

研究協力者氏名：磯部 理美

ローマ字氏名：ISOBE, Satomi